

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

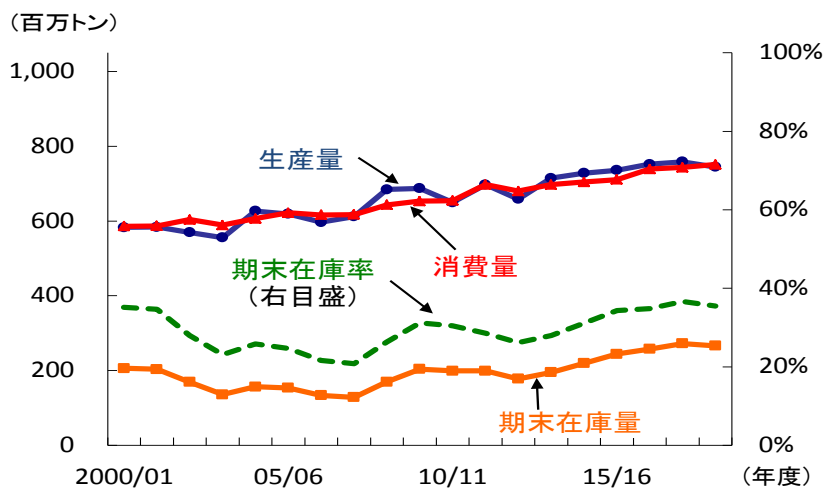
・ロシアでの減産等から過去最高を記録した前年度より減少する見込み。また、前月に比べ、インドでの単収の上昇がみられるものの、ロシアでの乾燥影響から下方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ロシア等で減少も EU 等で増加し、前年度を上回る見込み。また、前月に比べ、ロシアで生産減による輸出余力の低下により下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

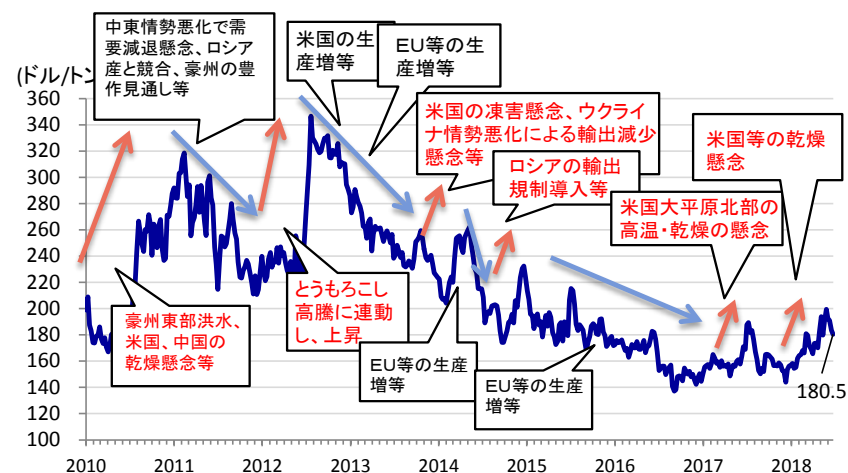


資料：USDA「PS&D」（2018. 6. 12）をもとに農林水産省で作成。

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	752.0	758.2	744.7	▲ 3.1	▲ 1.8
消費量	738.9	743.2	750.9	▲ 3.0	1.0
うち飼料用	146.8	145.5	142.7	▲ 2.9	▲ 1.9
輸出量	183.3	182.8	187.3	▲ 1.1	2.5
輸入量	179.1	181.3	183.7	▲ 1.2	1.3
期末在庫量	257.3	272.4	266.2	1.8	▲ 2.3
期末在庫率	34.8%	36.6%	35.4%	0.4	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」（12 June 2018）



注：シカゴ商品取引所による2018年6月22日までの毎週金曜日の期近価格である。

(3) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】冬小麦は収穫が進展している。一方、春小麦は作付けが前年度より遅れたものの、5月末時点で概ね終了し、現在は出穂が進んでいる。作柄評価は良いやや良いの割合が冬小麦で前年度を下回るものの、春小麦では前年度を大幅に上回っている。

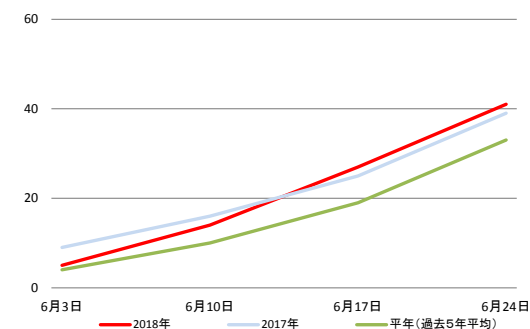
作付面積は、冬小麦で0.1%、春小麦で20%の増加、デュラム小麦で18%減少し全体では3.9%増の19.4百万ヘクタール。

生産量は、収穫面積の増加と単収の上昇により前年度より約5%増加する見込み。冬小麦は、干ばつ等による主要生産州のカンザス州等での減産から、生産量は32.6百万トンと前年度より約6%減少する。

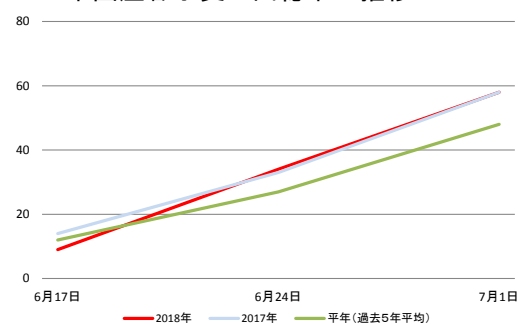
【需要状況】国内需要は、31.2百万トンと前年度より増加。その内訳は、食用需要が26.3百万トン（前年度比0.2%増）、飼料用はとうもろこしの減産により3.3百万トン（前年度比71.2%増）、種子用が1.7百万トン（前年度比1.7%減）となる見込み。

【貿易情報・その他】ロシアの輸出余力が生産減で減少するため、輸出量は25.9百万トンと前年度より増加する見込み。なお、6月1日時点の在庫量は、前年度を6.8%下回る29.9百万トンである。

(%) 米国産冬小麦の収穫進捗率の推移



(%) 米国産春小麦の出穂率の推移



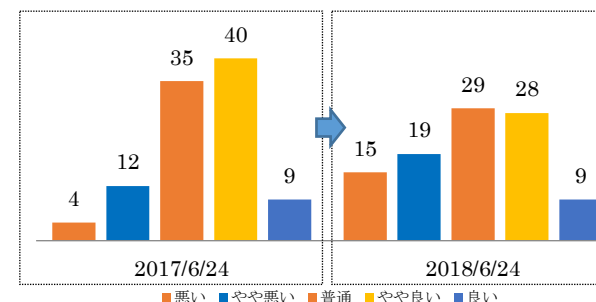
小麦－米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

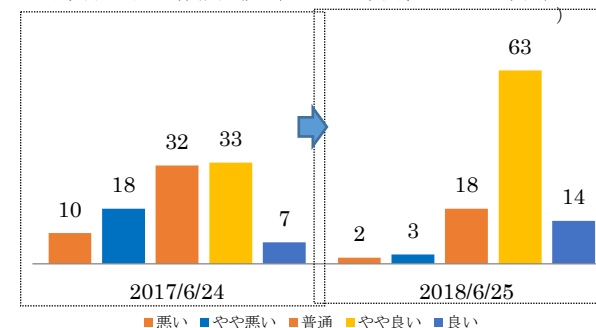
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	49.7	0.2	5.0
消費量	31.8	29.8	31.2	-	4.7
うち飼料用	4.3	1.9	3.3	-	71.2
輸 出 量	28.7	24.5	25.9	0.7	5.6
輸 入 量	3.2	4.2	3.7	-	▲ 13.0
期末在庫量	32.1	29.4	25.7	▲ 0.2	▲ 12.4
期末在庫率	53.1%	54.1%	45.1%	▲ 1.0	▲ 9.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.75	15.21	15.76	-	3.6
単収(t/ha)	3.54	3.11	3.16	0.01	1.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 June 2018)

米国冬小麦の作柄評価 (2018/19年度、2017/18年度)(%)



米国春小麦の作柄評価 (2018/19年度、2017/18年度) (%)



< カナダ >

【生育・生産状況】春小麦の作付けは6月上旬でほぼ終了。カナダ統計局(STATCAN)によると、小麦全体の作付面積は、10.0百万ヘクタールと前年度より10.4%増加。種類別には、冬小麦が11.3%減少したものの、デュラム小麦は前年度対比で18.8%の伸びとなった(右表を参照)。デュラム小麦は価格水準が比較的高いことから作付面積が増加した。

カナダ農務農産食品省(AAFC)によると生産量は、全小麦で前年度より4.4%増加の31.3百万トンの見込み。種類別には、デュラム小麦が作付面積の増加と単収の回復により前年度より14.9%増加し5.9百万トン。デュラムを除く小麦は、単収が平年並となることから前年度より1.5%減少し25.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】米国農務省(USDA)によれば、輸出量は主に北アフリカのデュラム小麦需要の増加により、前年度より0.5百万トン上昇する見込み。

< 豪州 >

【生育・生産状況】5月に入り降雨により作付けが進展。5月末現在、主要産地の西オーストラリア州では作付けがほぼ終了した。豪州農業資源経済科学局(ABARES)の6月見通しによれば、大麦の収益性がよいことから、小麦の作付面積が豪州全体で前年度より2%減の12百万ヘクタールとなるものの、単収の上昇により、生産量は前年度より16.0%増の24.6百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】輸出量は、2017/18年度については黒海地域産との競合により前年度より33.7%減少する見込み。一方、2018/19年度については品質の高い豪州産小麦に需要が高まると見られていることや、2018/19年度の生産量が増加すると見込まれていることから、輸出量は前年度より13.3%増加する見込み。

小麦－カナダ

(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	32.5 (31.3)	-	8.3
消費量	10.8	9.0	9.6 (8.9)	-	6.7
うち飼料用	5.8	3.8	4.5 (4.4)	-	18.4
輸出量	20.2	23.0	23.5 (22.3)	-	2.2
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	6.9	5.4	5.3 (6.4)	0.1	▲ 1.8
期末在庫率	22.4%	16.9%	16.0% (20.5%)	0.2	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	9.00	9.77 (10.04)	-	8.6
単収(t/ha)	3.58	3.33	3.33 (3.12)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 June 2018)

AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(25 May 2018)

カナダ 種類別小麦作付面積

(百万ヘクタール)

	2017年	2018年	増減率(%)
全小麦	9.06	10.00	10.4
デュラム	2.11	2.50	18.8
春小麦	6.39	7.00	9.5
冬小麦	0.56	0.50	-11.3

(資料:カナダ統計局「Principal field crop areas,June 2018」)

小麦－豪州

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	31.8	21.5	24.0 (24.3)	-	11.6
消費量	7.5	7.3	7.5 (7.1)	0.3	3.0
うち飼料用	4.0	3.8	4.0 (3.7)	0.2	5.3
輸出量	22.6	15.0	17.0 (17.5)	-	13.3
輸入量	0.1	0.2	0.2 (0.2)	-	-
期末在庫量	5.7	5.1	4.8 (5.9)	0.6	▲ 6.9
期末在庫率	19.0%	22.9%	19.4% (24.0%)	2.2	▲ 3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	12.20 (12.24)	-	▲ 0.4
単収(t/ha)	2.61	1.76	1.97 (1.74)	-	11.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 June 2018)

IGC 「Grain Market Report」(24 May 2018)

< EU >

【生育・生産状況】4月から5月中旬にかけて、主産地では概ね順調に出穂を迎え、6月に入り収穫が開始されたものの、米国農務省(USDA)の6月予測等ではドイツ、ポーランド等で乾燥の影響により生産量が下方修正されたことから、今後とも注視が必要。

欧州委員会によれば、2018/19年度の普通小麦の生産量は約140百万トンで、フランスが約3割、ドイツが約2割、英国が約1割のシェアを占め、デュラム小麦の生産量は9.0百万トンで、イタリアが約半分、フランスが約2割のシェアとなる見込み。

【貿易情報・その他】米国農務省(USDA)の6月予測によれば、2018/19年度の輸出量は、前月からの改訂はなく、29.0百万トン、輸入量は5.5百万トンの見込み。

< 中国 >

【生育・生産状況】冬小麦は、6月に入り、収穫が行われている。6月14日の中国農業農村部のプレスによれば、6月13日時点の収穫進捗は、河南省、四川省等で概ね終了、河北省や山西省で6割程度、中国全体では8割程度が終了。

【需要状況】消費量は、飼料用需要増から増加が見込まれている。

【貿易情報・その他】5月19日、中国政府は、小麦、米に関し、一般の食料市場において連続する三日の間、買付価格が政府発表の最低買付価格より低くなった場合、公的買付け機関が関係各機関で調整された価格で買い付けする旨の通知を行った。

主要産地のひとつである安徽省は6月6日、国家備蓄向け三等の小麦の最低買付価格を昨年の価格より0.06元/kg引き下げ2.3元/kgとした。同省内ではこの価格を基準に買付価格の調整が行われると見られる。

小麦-EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はEU		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.4	151.6	149.4	(149.1)	▲ 1.0	▲ 1.4
消費量	128.0	130.9	128.5	(128.1)	▲ 1.0	▲ 1.8
うち飼料用	56.0	58.5	56.0	(54.8)	▲ 1.0	▲ 4.3
輸 出 量	27.3	24.0	29.0	(28.2)	-	20.8
輸 入 量	5.3	5.5	5.5	(5.4)	-	-
期末在庫量	10.9	13.1	10.5	(19.1)	-	▲ 19.9
期末在庫率	7.0%	8.4%	6.6%	(12.2%)	0.0	▲ 1.8
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.23	26.29	25.80	(25.48)	-	▲ 1.8
単収(t/ha)	5.34	5.77	5.79	(5.9)	▲ 0.04	0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(12 June 2018)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(31May 2018)

小麦-中国 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	128.9	129.8	129.0	(128.7)	-	▲ 0.6
消費量	118.5	117.0	120.0	(120.1)	-	2.6
うち飼料用	16.5	13.5	15.0	(14.7)	-	11.1
輸 出 量	0.8	1.0	1.2	(1.1)	-	20.0
輸 入 量	4.4	4.0	4.0	(3.3)	-	-
期末在庫量	111.1	126.8	138.6	(120.4)	-	9.3
期末在庫率	93.1%	107.5%	114.4%	(99.3%)	-	6.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.19	23.99	23.90	(23.99)	-	▲ 0.4
単収(t/ha)	5.33	5.41	5.40	(5.41)	-	▲ 0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2018)
IGC 「Grain Market Report」(24 May 2018)

< ロシア >

【生育・生産状況】5月以降、気温が平年を上回って推移したことから、冬小麦は、急速に生長が進展。その後、6月に欧州地区を中心に多くの地域で高温・乾燥となり生育に影響を与えた。現在、収穫期を迎えているが、今後も、生育状況について注視が必要。

一方、春小麦は、実質的な播種作業は終了。農業省発表の6月14日時点の播種面積は前年比1.07百万ヘクタール減の12.1百万ヘクタールで、過去最低だった2013年の12.7百万ヘクタールを下回る史上最小の面積になる見込み。

生産量は、米国農務省(USDA)によれば、高温乾燥の影響により前月に比べ、350万トン下方修正され、豊作が続いた過去2カ年度を下回る見通し。

【貿易情報・その他】2017/18年度、ロシアは、増産と米国等に比べ高い輸出競争力から世界第1位の小麦輸出国となる見込み。また、生産量は減少するものの、引き続き、2018/19年度も世界第1位となる見込み。

小麦－ロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

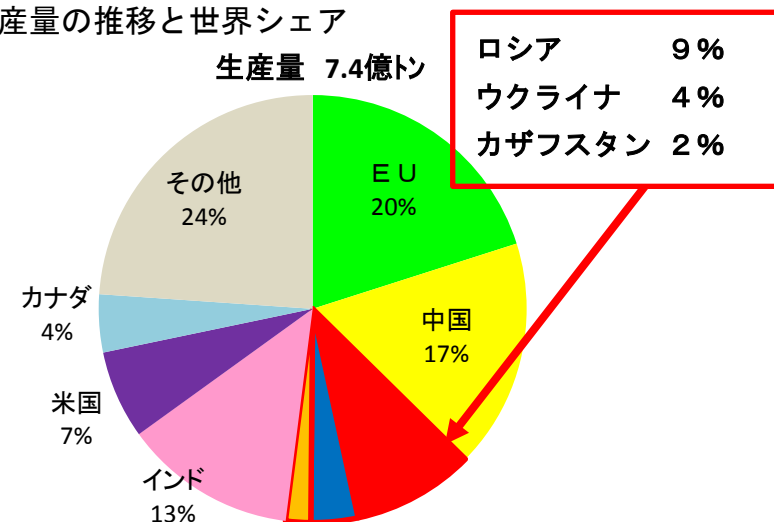
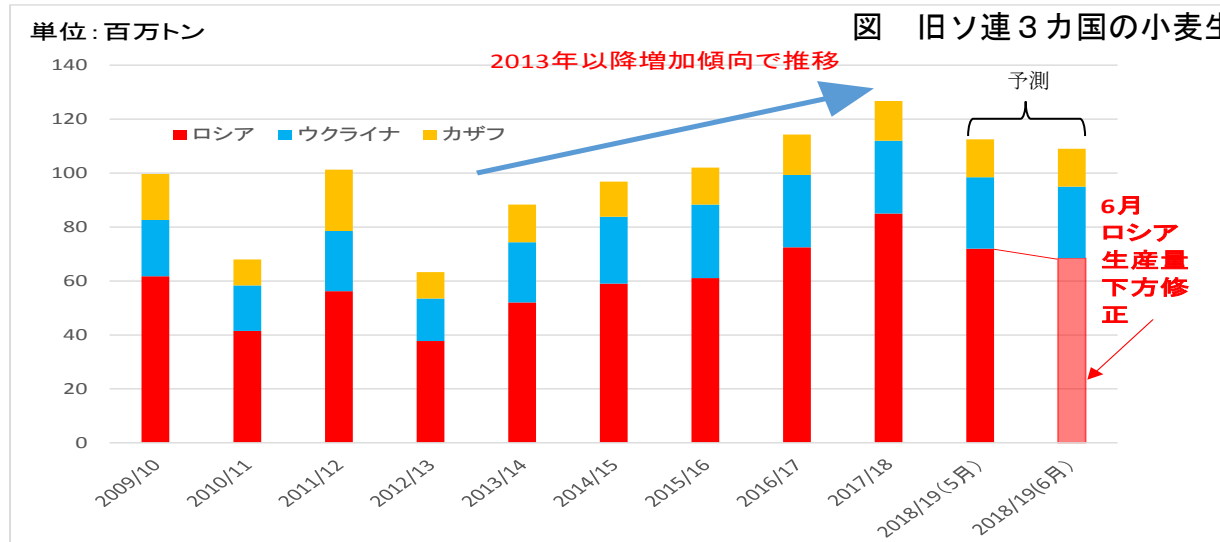
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	72.5	85.0	68.5 (74.5)	▲ 3.5	▲ 19.4	
消費量	40.0	45.0	39.5 (41.8)	▲ 2.5	▲ 12.2	
うち飼料用	17.0	21.5	17.0 (18.0)	▲ 2.0	▲ 20.9	
輸 出 量	27.8	40.5	35.0 (37.0)	▲ 1.5	▲ 13.6	
輸 入 量	0.5	0.4	0.5 (0.3)	-	25.0	
期末在庫量	10.8	10.7	5.2 (14.0)	▲ 0.5	▲ 51.3	
期末在庫率	16.0%	12.5%	7.0% (17.7%)	▲ 0.3	▲ 5.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	25.00 (26.80)	▲ 1.00	▲ 8.6	
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.74 (3.17)	▲ 0.03	▲ 11.9	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2018)
IGC 「Grain Market Report」(24 May 2018)

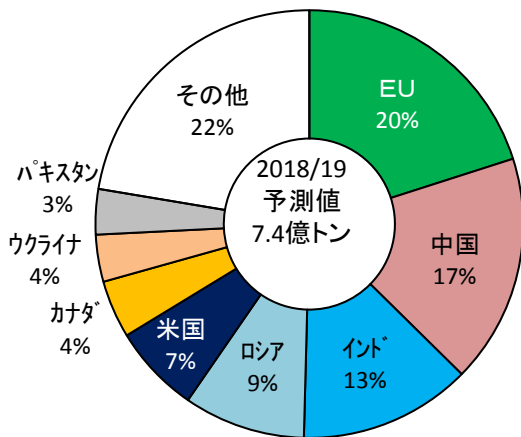
〈参考〉最近の旧ソ連3カ国(ロシア、ウクライナ、カザフスタン)の小麦生産量の推移

・2013年以降、2017年産まで増加傾向で推移し、2018年は、高温乾燥もありロシアで減産見通し。3カ国合わせシェアは約15%。

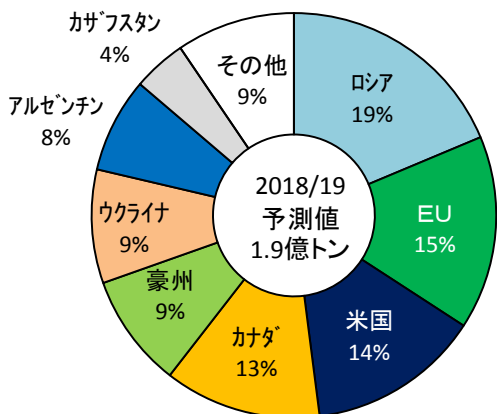


資料 世界の小麦生産量と輸出量/日本の輸入量(2018年6月現在)

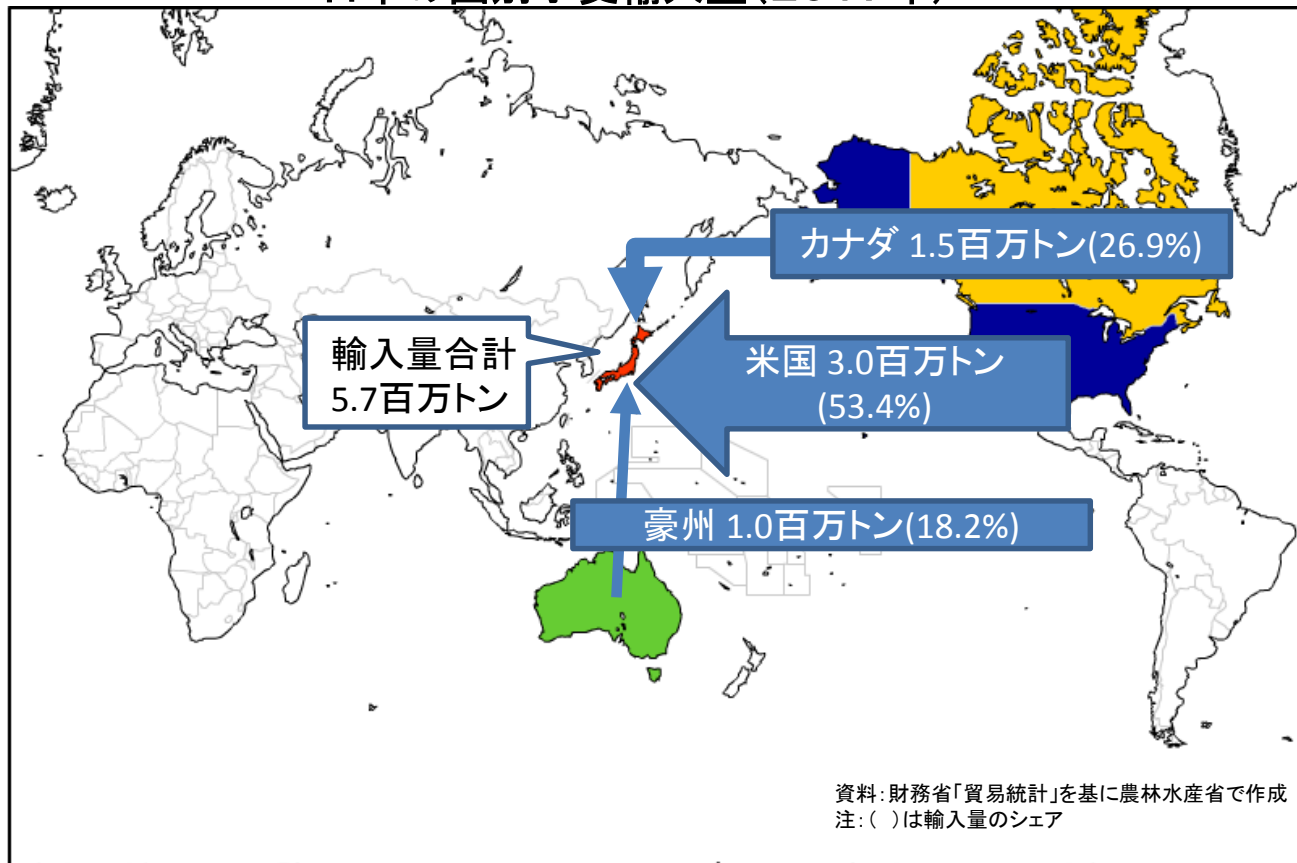
世界の小麦生産量



世界の小麦輸出量

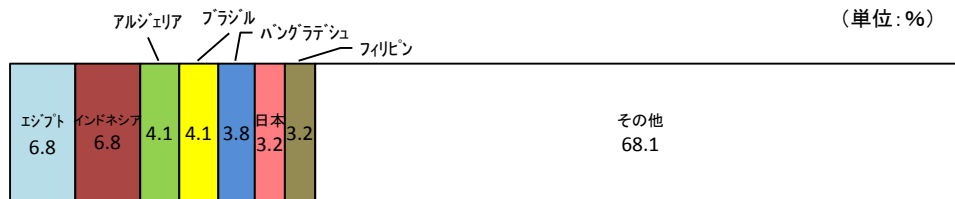


日本の国別小麦輸入量(2017年)



<参考>世界の小麦輸入国 (2018/19)

—世界の輸入量の3割を上位7カ国が占める—



日本の小麦生産量
 2015年: 1.00百万トン
 2016年: 0.79百万トン
 2017年: 0.91百万トン
 (資料: 農林水産統計)

資料: USDA「PS&D」(2018年6月12日)を基に農林水産省にて作成。

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

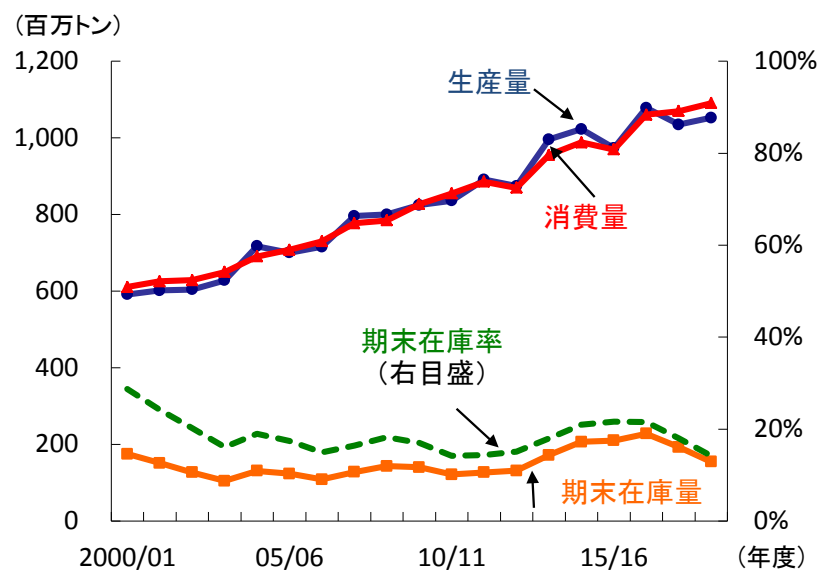
・前月に比べ、ロシアでの収穫面積の減少により下方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月に比べ、ロシアでの生産減少による輸出余力の低下により下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

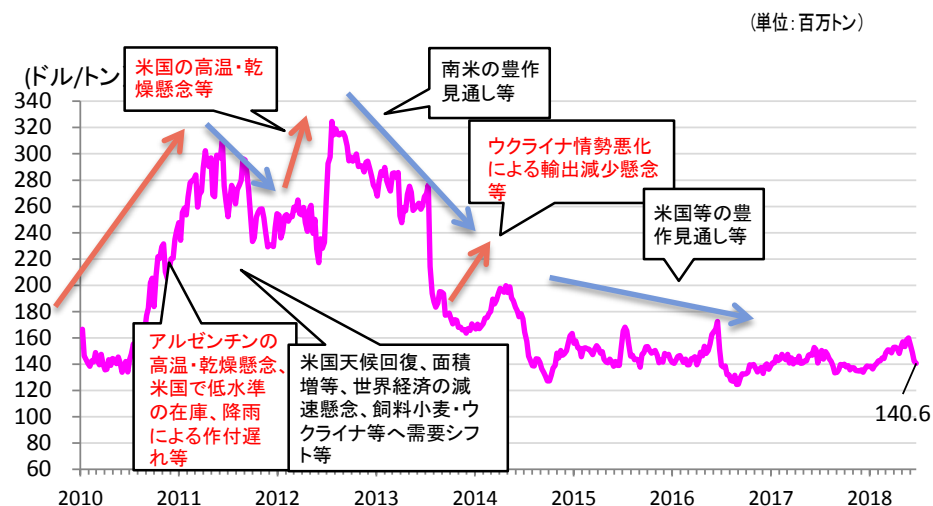


資料：USDA「PS&D」(2018.6.12)をもとに農林水産省で作成。

(単位:百万トン)

年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,078.4	1,034.8	1,052.4	▲ 3.6	1.9
消費量	1,060.5	1,070.0	1,090.4	▲ 1.3	2.1
うち飼料用	633.4	648.6	663.1	▲ 2.5	2.6
輸出量	159.8	151.5	156.0	▲ 2.0	4.6
期末在庫量	227.9	192.7	154.7	▲ 4.5	▲ 18.3
期末在庫率	21.4%	18.2%	14.6%	▲ 0.4	▲ 3.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(June 2018)



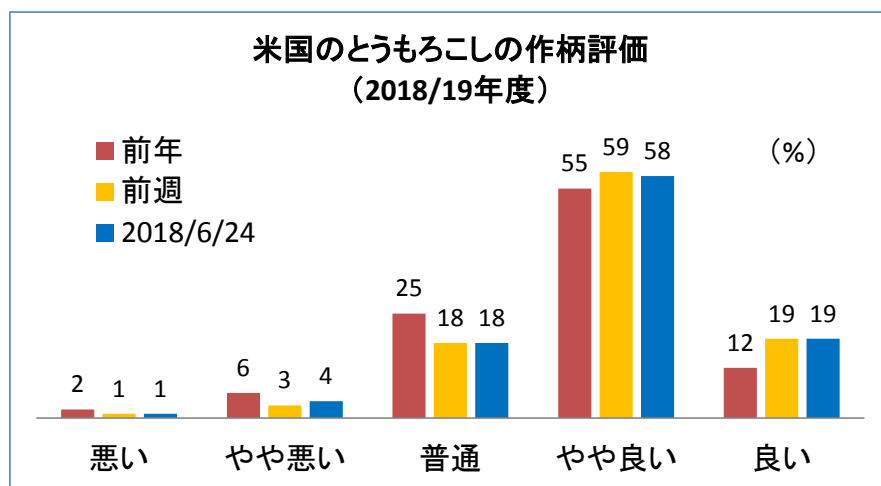
注：シカゴ商品取引所による2018年6月22日までの毎週金曜日の期近価格である。

(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】主要産地では、シルキング（種実部の先端からめしべとなる細く長い毛を出すことで、受粉の準備をすること）が始まっている。米国農務省(USDA)によると、6月末時点で生育状況（良い、やや良いを足したもの）は、前年度よりも良好である。生産量は、前年度と比較して、収穫面積の減少により、3.9%減少する見込み。

【需要状況】飼料需要は、前年度比で低下する見通しであり、前月よりさらに下方修正。一方、バイオエタノール向け需要は、ガソリン消費の増加にともない、わずかに増加見込みであり、前月比で1.3百万トン上方修正。原油先物価格は、6月下旬から70ドルを上回っており、バイオエタノール需要を下支えしている。



資料：USDA Crop progress 2018.06.25

とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.0	356.6	-	▲ 3.9
消費量	313.9	318.5	317.9	0.6	▲ 0.2
うち飼料用	139.0	139.7	135.9	▲ 0.6	▲ 2.7
エタノール用等	138.0	141.6	144.2	1.3	1.8
輸 出 量	58.2	58.4	53.3	-	▲ 8.7
輸 入 量	1.5	1.1	1.3	-	11.4
期末在庫量	58.3	53.4	40.1	▲ 2.7	▲ 25.0
期末在庫率	15.7%	14.2%	10.8%	▲ 0.7%	▲ 3.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	32.66	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	10.96	11.08	10.92	-	▲ 1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(June 2018)

とうもろこし—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	41.0	33.0	41.0 (48.3)	-	24.2
消費量	11.2	9.8	12.0 (20.1)	-	22.4
うち飼料用	7.5	6.0	8.0 (15.5)	-	33.3
輸 出 量	26.0	25.0	27.0 (29.0)	-	8.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	3.5	5.5 (5.8)	-	57.8
期末在庫率	14.2%	10.0%	14.1% (11.8%)	-	4.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.90	5.10	5.00 (6.45)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	8.37	6.47	8.20 (7.49)	-	26.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(June 2018)
IGC「Grain Market Report」(June 2018)

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社（CONAB）によると、2017/18 年度夏とうもろこしは、収穫を終了。生育期である冬とうもろこしは、ブラジル南部で 4 月以降、干ばつが発生していることから、2016/17 年度と比較して、減産の見通し。

【需要状況】CONAB によると、2017/18 年度の生産量は前年度比で低下するが、主に鶏・豚用向け飼料が中心に伸びており、消費量は同じ水準を維持する見通し。

【貿易情報・その他】CONAB によると、トラック業界のストライキの影響で養鶏の飼料調達が困難であったため、主要な鶏肉生産地（サンタカタリーナ州、パラナ州、南マトグロッソ州）では、その地域のとうもろこし減産による飼料不足を補うため、パラグアイなど隣国からの輸入が必要となっている。

とうもろこしーブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割）

（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	98.5	85.0	96.0 (93.8)	-	12.9	
消費量	60.5	62.0	65.5 (65.0)	-	5.6	
うち飼料用	51.0	52.5	55.0 (52.0)	-	4.8	
輸 出 量	31.6	29.0	31.0 (31.0)	-	6.9	
輸 入 量	0.9	0.5	0.7 (0.5)	-	40.0	
期末在庫量	14.0	8.5	8.7 (6.4)	▲ 0.9	2.3	
期末在庫率	15.2%	9.4%	9.0% (6.6%)	▲ 0.9%	▲ 0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.60	16.90	17.70 (17.00)	-	4.7	
単収(t/ha)	5.60	5.03	5.42 (5.52)	-	7.8	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(June 2018)
IGC「Grain Market Report」(June 2018)

< 中国 >

【生育・生産状況】中国気象台の農業気象月報によると、5月後半、東北地域で降雨があり、水不足は解消された。主産地における生育状況は、平年より良好である。

【需要状況】国家備蓄とうもろこしの競売が続いていることから、国内価格は下落。5月には、東北地方における、でん粉、アルコール向け加工補助金が締切られ、今後も弱気の取引が予測される。

とうもろこしー中国

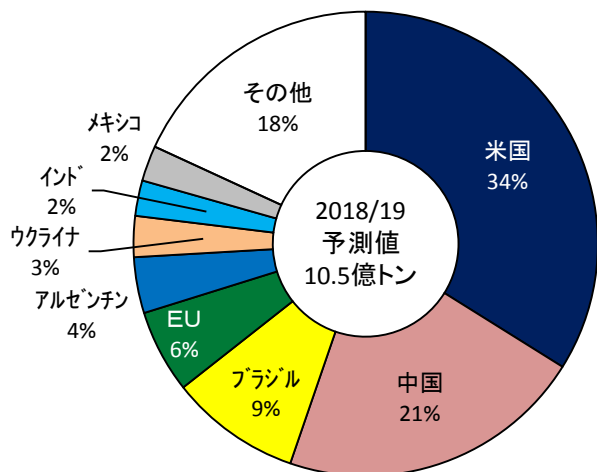
（単位：百万トン）

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	219.6	215.9	225.0 (220.8)	-	4.2	
消費量	232.0	241.0	249.0 (246.2)	-	3.3	
うち飼料用	162.0	167.0	172.0 (152.0)	-	3.0	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.2)	-	-	
輸 入 量	2.5	4.0	5.0 (3.0)	-	25.0	
期末在庫量	100.7	79.6	60.5 (166.1)	-	▲ 23.9	
期末在庫率	43.4%	33.0%	24.3% (67.4%)	-	▲ 8.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	36.77	35.47	36.50 (35.70)	-	2.9	
単収(t/ha)	5.97	6.09	6.16 (6.19)	-	1.1	

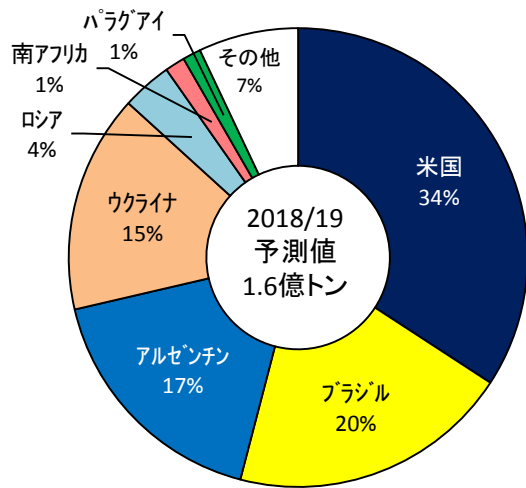
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(June 2018)
IGC「Grain Market Report」(June 2018)

資料 世界のとうもろこし生産量と輸出量/日本の輸入量(2018年6月現在)

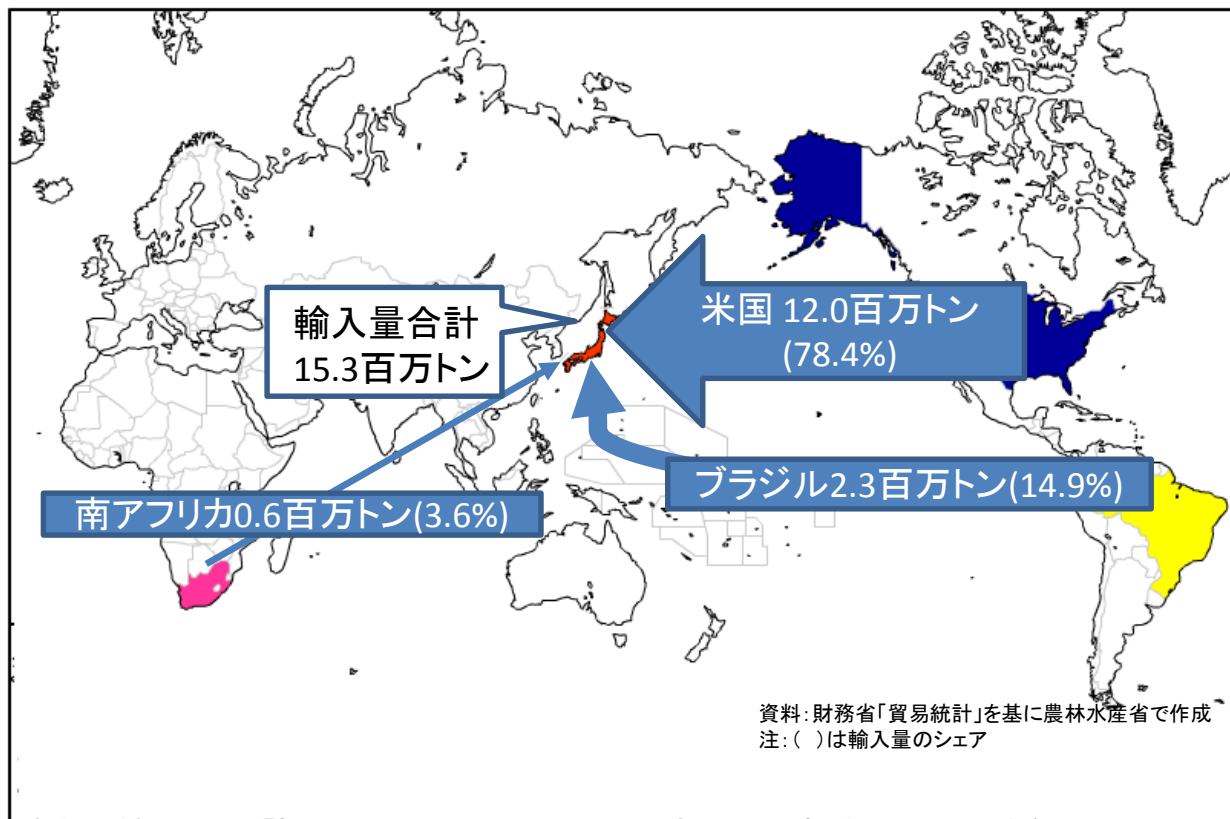
世界のとうもろこし生産量



世界のとうもろこし輸出量



日本の国別とうもろこし輸入量(2017年)

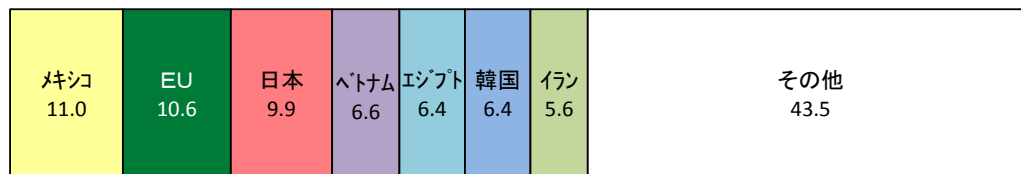


資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省で作成
注:()は輸入量のシェア

<参考>世界のとうもろこし輸入国(2018/19)

—日本は世界第3位のとうもろこし輸入国—

(単位:%)



3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月と比べ、中国での収穫面積の減少により、下方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月と比べ、中国での生産減により、下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月と比べ、米国での中近東向け輸出の増加により、上方修正された。

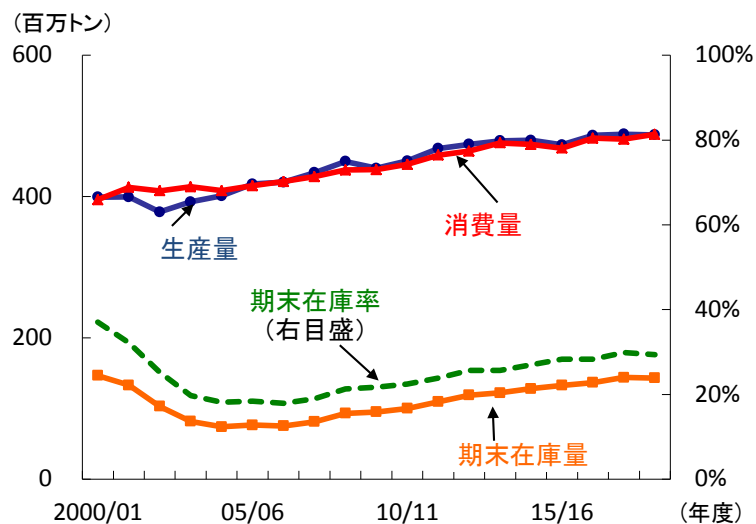
期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月と比べ、中国での生産減により、下方修正された。

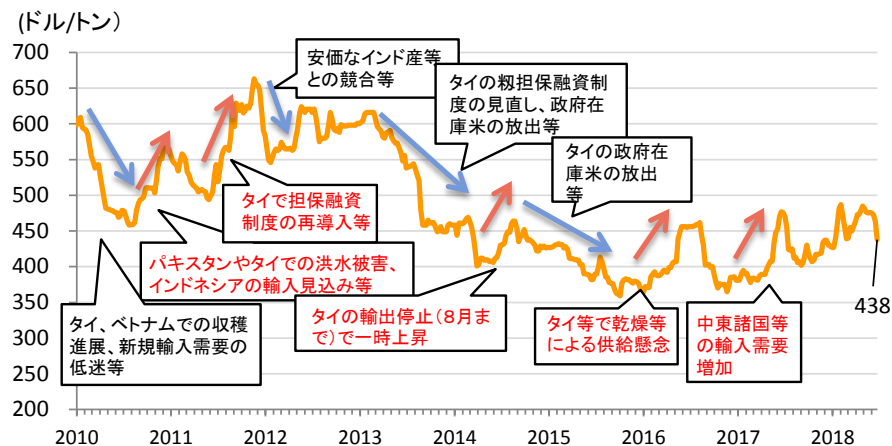
(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	486.7	488.3	487.4	▲ 2.1	▲ 0.2
消費量	482.7	481.2	488.1	▲ 0.6	1.4
輸出量	47.3	48.3	49.4	0.1	2.3
輸入量	41.3	48.5	46.6	0.2	▲ 3.9
期末在庫量	136.7	143.9	143.2	▲ 1.5	▲ 0.5
期末在庫率	25.8%	27.2%	26.6%		▲ 0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2018)



資料: USDA 「PS&D」(2018.6.12)をもとに農林水産省で作成。



注:タイ国家貿易取引委員会公表による2018年6月20日までの毎週水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

(3) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生育・生産動向】米国農務省（USDA）によれば、6月24日時点で、長粒種の主産地のルイジアナ州では31%が出穂段階に進んでおり、中・短粒種の主産地のカリフォルニア州では今後、出穂段階を迎えると見られる。

生育状況はルイジアナ、カリフォルニアとも良好で、生産量は前年度と比較して14.0%増加の見込み。

【需要状況】生産量の増加により、消費量は前月よりわずかに上方修正され、前年度比2.6%増となる見込み。

【貿易情報・その他】

輸出量は、長粒種については、増産により価格競争力が増した結果、増加し、中・短粒種についても、エジプトの生産減により上方修正され、地中海諸国向けを中心に増加する見込み。

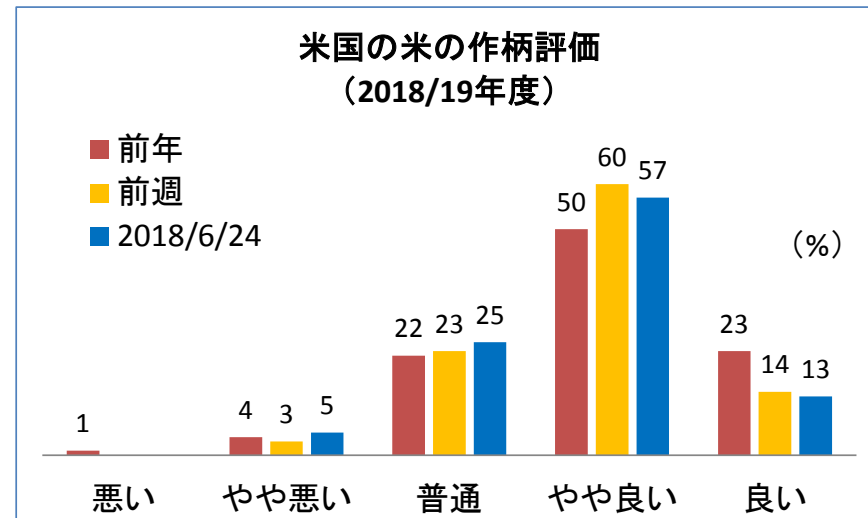
(国際穀物理事会によれば、エジプトのシェリーフ・イスマイール首相が6月5日、水不足の対策として国産米の生産を減少させ輸入を増加させる旨発言した)

米－米国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.1	5.7	6.5	-	14.0
消 費 量	4.2	3.8	3.9	0.04	2.6
輸 出 量	3.7	3.0	3.3	0.1	9.4
輸 入 量	0.8	0.9	0.9	0.03	-
期末在庫量	1.5	1.2	1.3	0.03	11.9
期末在庫率	18.6%	17.4%	18.4%		1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.08	-	12.5
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.53	-	1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2018)



資料：USDA「Crop Progress」(2018.5.28)をもとに農林水産省で作成。

< タイ >

【生育・生産動向】タイの米生産は、主に夏期に栽培される雨期米と、冬期に栽培される乾期米に分かれている。

タイ気象局によれば、2018/19年度については、例年並みの気温、降水量で推移しており、雨期米は増産が見込まれている。

USDAにおいても、2018/19年度の雨期米は増産の見通しである。

一方、2017/18年度の乾期米については、タイ政府によれば、貯水量が潤沢であったことから、作付面積が1.96百万ヘクタールと増加し、単収が4.2トン/ヘクタールと見込まれることから、生産量は8.25百万トン(粳ベース)となる見込み。

【需要状況】消費量は、前年度より減少の見込み。背景には食生活の高度化により小麦へのシフトがあるとみられる。

【貿易情報・その他】5月にフィリピン向け等の新規輸出の契約を落札するなど輸出需要が強い。輸出価格はジャスミン米等の高品質米を中心に上昇する見込み。

< 中国 >

【生育・生産動向】生育状況は、一期作稲は東北地区を除いて概ね分けつ期に入っている。一方、二期作早稲については出穂期に入っている。乾燥被害があった東北地区等、一部の地域を除き、気象条件が良好なため、概ね順調に生育している。

USDAによれば、国家最低買入価格が引き下げられたことから、作付け意欲が減退し、収穫面積が減少するため、前月より生産量は下方修正された。

【貿易情報・その他】輸入については、世界一位の550万トンを維持する見込み。

5月19日、中国政府は、米、小麦に関し、一般の食料市場において連続する三日の間、買付価格が政府発表の最低買付価格より低くなった場合、公的買付け機関が関係各機関で調整された価格で買い付けする旨の通知を行った。

米－タイ(米生産は、夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる)

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.2	20.4	21.2 (21.0)	0.2	4.1
消費量	12.0	11.2	10.2 (10.5)	0.2	▲ 8.7
輸 出 量	11.6	10.5	11.0 (10.7)	-	4.8
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	4.2	3.2	3.4 (3.7)	-	7.8
期末在庫率	18.0%	14.7%	16.2% (17.5%)		1.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	11.14 (11.10)	0.09	4.3
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.88 (1.89)	-	▲ 0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 June 2018)

IGC 「Grain Market Report (24 May 2018)」 (単収は精米t/ha)

米－中国(北部で一期作、南部で二期作で行われる)

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.0	146.0	142.2 (141.8)	▲ 2.3	▲ 2.6
消費量	141.5	142.7	144.0 (146.0)	▲ 1.0	0.9
輸 出 量	0.8	1.3	1.7 (1.7)	-	30.8
輸 入 量	5.3	5.5	5.5 (4.8)	-	0.0
期末在庫量	86.5	94.0	96.0 (72.6)	▲ 1.3	2.1
期末在庫率	60.8%	65.3%	65.9% (49.2%)		0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.18	30.18	29.50 (29.45)	▲ 0.50	▲ 2.3
単収(もみt/ha)	6.86	6.91	6.89 (4.81)	0.01	▲ 0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 June 2018)

IGC 「Grain Market Report (24 May 2018)」 (単収は精米t/ha)

< インド >

【生育・生産動向】インド農業省により 2018 年 5 月 16 日付で発表された第 3 次予測によると、2017/18 年度の収量予測はカリフ(雨期)米、ラビ(乾期)米ともに収量目標をわずかに上回った。

6 月以降、2017/18 年度のラビ米の収穫は概ね終了し、2018/19 年度のカリフ米の作付けが開始。

2018/19 年度は USDA によれば、収穫面積が前年度より増加するものの、単収がわずかに低下することから、生産量は前年度よりわずかに減少する見込み。

【需要状況】消費量は、今月上旬修正され、前年度よりわずかに増加する見込み。

【貿易情報・その他】輸出量は前年度並みで、世界 1 位を維持する見込み。5 月 25 日付の報道によれば、インド産碎米の価格はインドルピーの下落に伴い、1 トンあたり 10 米ドル下落し、394~398 米ドル/トンとなっており、タイやベトナムと比べ優位性があるとみられる。

< ベトナム >

【生育・生産動向】南部のメコンデルタにおける夏秋作の作付けは前年と比べて 1 割程度遅れている。冬春作の収穫の遅れから、夏秋作の作付けも例年より後倒しになっているのが要因である。現在、夏秋作は分けつ期から出穂期の間のステージにあり、生育状況は良好。

USDA によれば、2018/19 年度は単収がわずかに上昇することから、生産量は、前年度よりわずかに増加する見込み。

【需要状況】消費量は、前年度並の見込み。

【貿易情報・その他】ベトナム農業農村発展省 (MARD) によれば、2018 年 1 月~5 月の輸出量は 2.66 百万トン (前年同期比 14%増)、輸出額では 1.45 億米ドル (前年同期比 54%増) となっており、特に高品質のものが増加している。近年はジャポニカ米の輸出も開始され、5 月末には韓国向けの 5 万トンの輸出枠を獲得したと報道されている。

米ーインド (雨季のカリフ作と乾季のラビ作で行われる)

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.7	110.0	109.0 (113.0)	-	▲ 0.9
消費量	95.8	97.4	98.2 (101.0)	0.2	0.9
輸出量	11.8	13.0	13.0 (12.2)	-	-
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	20.2	18.0 (18.0)	-	▲ 10.9
期末在庫率	19.1%	18.3%	16.2% (15.9%)		▲ 2.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.99	42.90	43.50 (44.00)	-	1.4
単収(もみt/ha)	3.74	3.85	3.76 (2.57)	-	▲ 2.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2018)
IGC 「Grain Market Report (24 May 2018)」 (単収は精米t/ha)

米ーベトナム (北部で二期作、南部で二期作、三期作)

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.4	28.6	28.7 (28.6)	-	0.3
消費量	22.0	22.0	22.2 (22.8)	-	0.9
輸出量	6.5	6.8	6.8 (6.7)	-	-
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.2	1.2 (1.4)	-	6.1
期末在庫率	3.4%	4.0%	4.2% (4.7%)		0.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.71	7.76	7.76 (7.80)	-	-
単収(もみt/ha)	5.68	5.89	5.91 (3.67)	-	0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2018)
IGC 「Grain Market Report (24 May 2018)」 (単収は精米t/ha)

(参考) 主要国の米の輸入動向について

- ・米の輸入国について 2018 年と 2008 年と比較して、EU やイラン、ナイジェリアが引き続き上位を占めている。
- ・2012 年以降、中国が世界 1 位の輸入国となっている。一方、2008 年に世界 1 位であったフィリピンは、最近では下位へ。
- ・フィリピンやインドネシアといった東南アジア諸国の輸入量は増減を繰り返してはいるが、概ね減少または横ばい傾向。
要因としては各国の米の増産もあるが、食生活の西洋化による小麦やその他食品への需要のシフトもあると推測。

図-1 2008年と2018年の米の主要輸入国の比較

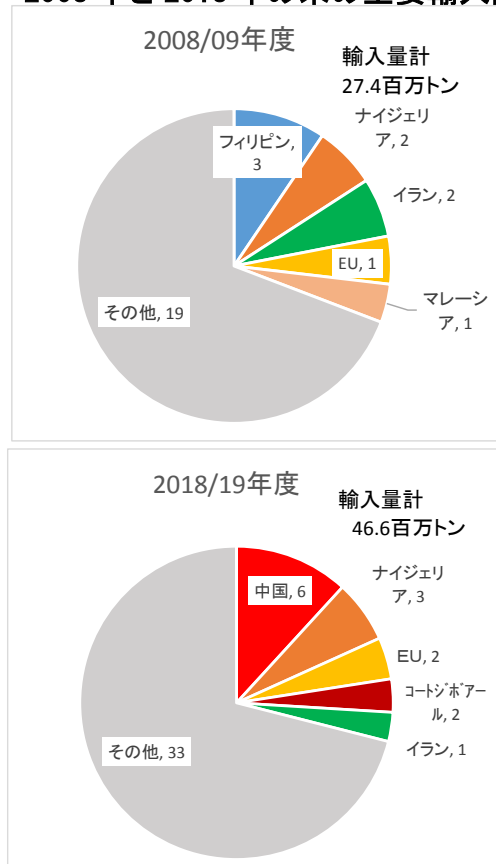
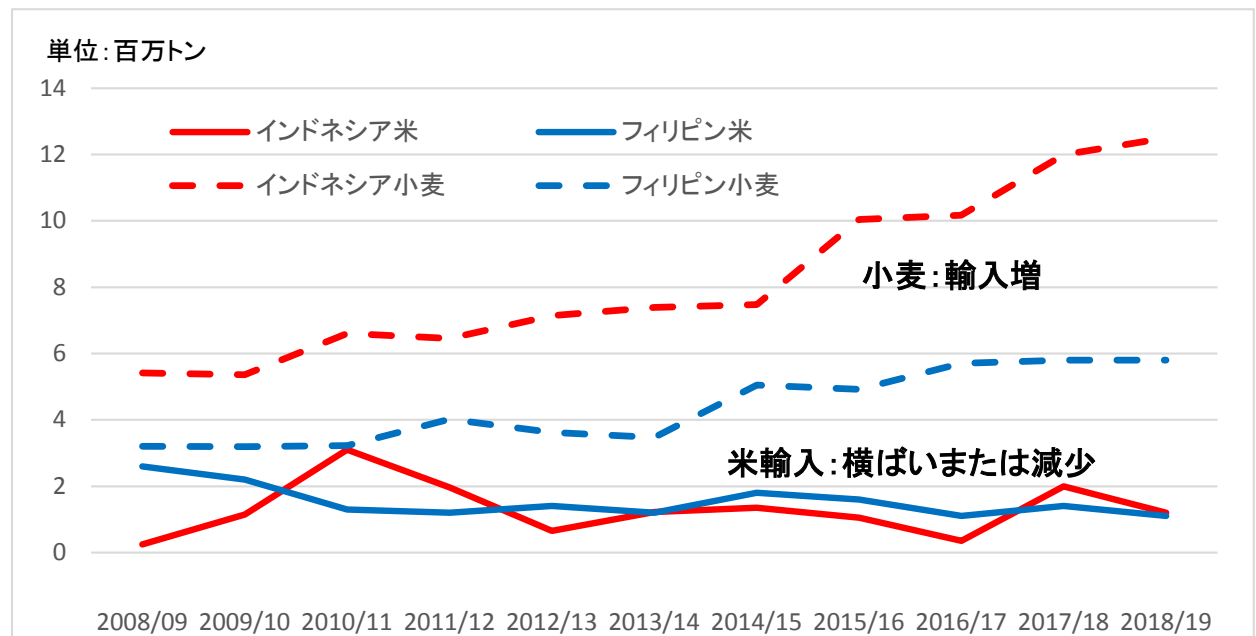


図-2 フィリピン、インドネシアの米と小麦の輸入量の推移



資料: USDA 「PS&D」 (2018年6月)をもとに農林水産省で作成。